

「耳が聞こえないということ」はどういうことなのか

この社会でどのように生活し、聞こえる人たちと
どのように関わっていけばよいのか

「耳が聞こえないというコミュニケーション」

「参加」という2文字のタイトルをつけました

私（筆者）は耳が聞こえません。

両耳ともにほとんど聴力がなかったので会話を聞き取ることはできません。また、自分の声を自分で聞くことができないので、聞こえる人が聞くとはわがりにくい発音になります。相手の話を聞く代わりに手話や読唇、筆談などの手段でコミュニケーションをしています。

聞こえないということはどういうことなのか。そして、この社会でどのように生活し、聞こえる人たちとどのように関わっていけばよいのかという、私なりにずっと取り組んできた課題について、メッセージを送りたいと思います。

このメッセージを1冊の本にまとめるにあたって「参加」という2文字のタイトルをつけました。

「同等に」「参加」できることが「ともに生きる」ことの出発点になります

この本を手にとってくださった方は、聴覚障害者と何らかの関わりを持っている方が多いと思います。

聴覚障害児教育の場、地域の学校、職場の同僚や上司、聴覚障害者向けのICT技術開発者、社会の最小単位である家族、家庭生活の代わりとなる施設など様々なところに、健聴者と聴覚障害者とが一緒にいる集団があります。ただ一緒にいるだけでは、「ともに生きる」ということにはなりません。

コミュニケーションが成立しなければ、聴覚障害者はその集団に「参加」することができません。一人ひとりがいろいろな立場はあっても同等に「参加」できていることが「ともに生きる」ことの出発点になります。

（「はじめに」から抜粋）

- 著 平川 美穂子
- 判型：A5判 178ページ ●定価：本体2,100円+税
- ISBN978-4-86371-365-9

●第1章では、聞こえないということの概要をまとめてみました。

●第2章では、私が受けてきた教育を振り返って、聞こえない子どもが伸び伸びと成長していくためにどのような配慮が望まれるかを考えました。

●第3章では、仕事をしてきた経験から、聴覚障害者が職場に参加することの困難さを振り返りました。

●第4章では、ICT（Information and Communication Technology「情報通信技術」）の発展によって願望が現実のものになったことや今後への期待を込めてみました。

●第5章では、ライフサイクルの終わりに目を留めて、いずれやってくる人生の終わりに、ろう者ならではのコミュニケーションの課題を考えてみました。

目次

はじめに

第1章 聞こえないということ

- 1 聞こえないとは何か
 - 1-1 会話を読む
 - 1-2 声をつくる
 - 1-3 聞こえないことの本質
- 2 聞こえなくなつて
 - 2-1 聞こえなくなつたとき
 - 2-2 音が聞こえる仕組み
 - 2-3 聞こえるけれどわからない
- 3 聞こえないことが障害となるとき
 - 3-1 聴覚障害、難聴、ろう
 - 3-2 社会の中での障害
 - 3-3 人との「出会い」

第2章 教育と合理的配慮

- 1 言葉の教育を受けて
 - 1-1 ろう学校入学
 - 1-2 口話法教育
- 2 普通の世界に入る
 - 2-1 インテグレーション
 - 2-2 孤立感、疎外感
- 3 手話との出会い
 - 3-1 手話は言語
 - 3-2 初めての手話通訳
- 4 特別支援教育と合理的配慮
 - 4-1 聞こえない子どもへの合理的配慮
 - 4-2 社会参加は家庭から

第3章 社会とコミュニケーション

- 1 社会・職場で
 - 1-1 モデル無き社会
 - 1-2 異世界の職場で
 - 1-3 プロジェクトリーダーとして
- 2 ともに仕事をし、ともに生きる
 - 2-1 障害者雇用に関する法律
 - 2-2 職場での合理的配慮
 - 2-3 コミュニケーションでつながる
出会い

第4章 ICTへの期待

- 1 飛躍的な進歩
 - 1-1 メールのできる携帯端末
 - 1-2 音声認識
- 2 出会いを広げるネットワーク社会
 - 2-1 コミュニケーションの壁を超える
 - 2-2 異なる障害者同士の交流
 - 2-3 情報の波に乗る
- 3 ICT技術の活用
- 4 そのほかの先端技術

第5章 老聾コミュニケーション

- 1 親の介護に直面して
 - 1-1 来るべきとき
 - 1-2 驚きの連続
- 2 課題と自分の老後
 - 2-1 いくつかの課題
 - 2-2 次は自分の番

おわりに

謝辞
引用文献・参考文献・参考ホームページ

『申し込み書』

FAX 03-5282-7892

平成 年 月 日

参加 一耳が聞こえないということー	著：平川 美穂子 ISBN 978-4-86371-365-9	定価（本体 2,100円＋税）	私費 冊	公費 冊
	あの手話の意味はなんだろう？ 日本の手話・形で覚える手話入門	著：竹村 茂 絵：たかね きゃら ISBN 978-4-86371-308-6	定価（本体 2,500円＋税）	私費 冊 公費 冊

お客様の個人情報は、書籍の発送、有用な情報のお届け、その他正当な目的のために利用いたします。
代金5,000円以上で送料サービスいたします。

書店様番線印

フリガナ	
お名前 (ご担当者名)	
送付先 ご住所	〒 - ※どちらかに○をつけてください 自宅・勤務先
送付先 ☎	()
勤務先名	

書店でもご注文いただけます。ご記入の上、用紙をお持ちください。



ジ アース
教育新社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル
TEL 03-5282-7183 FAX 03-5282-7892
E-mail info@kyoikushinsha.co.jp
http://www.kyoikushinsha.co.jp/

